保健室

静岡市立田町小学校

養護教諭　渡部　元美

本校は、静岡駅から西に2キロほど離れた場所にあります。江戸時代に徳川家康が整備した駿河国府中の城下町の玄関口でもあり、すぐそばには清流安倍川が流れています。つきたてのお餅にきな粉をまぶして白砂糖をかけた和菓子「安倍川餅」が有名です。田町小には、安倍川堤防に沿った場所に「田町の森」と呼ばれた林があり、豊富な樹木が育っています。季節によっていろいろな表情が楽しめる、田町っ子じまんの森です。また、東校舎玄関前に日本庭園の装飾である「水琴窟（すいきんくつ）」があります。子供達が安倍川の石で飾り付け、安倍川の水で不思議な音を奏でています。

本校では、「未来（あす）をきりひらく子」を目指す子ども像として掲げ、教育活動を充実させながら、地域の皆様と共に「9年間を見据えた教育活動」を行っています。「安倍川プライド」を軸とし、職員、保護者、地域一丸となったコミュニティスクールを中心にこれからの時代を生きるために必要な力の育成に取組んでいます。しかし、明るく素直な子供たちが多いです。自分の気持ちをなかなか言葉でうまく伝えることができず、付き添いでついてきた担任や友達に代弁してもらう子供が多いです。私は、自分のことは、自分で伝えられるように、質問を重ねながら言葉をつなぎ最後には、子供自身の言葉で伝えられるようにしています。時間はかかりますが、経験をすることが大切だと思い続けています。

中学校区で子供達の成長を見守れるよう、学校保健目標を「自ら生活習慣を整え、自己の健康管理ができる児童生徒」と統一し、子どもたちの未来を見据えながら、児童生徒自ら健康管理ができるようになるため、「GSW（グッドスリープウィーク）」を軸とした保健教育を中学校区で実施しています。

子ども自身にセルフコントロールする力を付けるため、1週間の自己目標たて、睡眠時間、電子メディア使用時間、今日の体調を記入し1週間後に自己評価ができる個人カードを使用しています。また、保護者欄を設け、学校と家庭で協力しながら取組めるように工夫しました。GSWの取組を盛り上げるため、保健委員会の子どもたちも給食の時間に放送や児童保健委員会だよりを通じ、全校の子どもたちや保護者へと取組の様子を発信しています。

子どもたちは、GSW以外の時は、自ら意識して行動できているかというと、まだまだです。しかし、継続することで自分の健康課題について、家庭も子どもも意識する機会をつくることが大切なのではないかと考えます。

子ども達の未来に向けて、体や心をよりよく成長するために、職員や保護者、地域の方々の力を借りながらこれからも子どもたちをサポートしていきたいと思います。

浜松市立東部中学校

養護教諭　大薗　文香

本校は、浜松駅から東に４㎞ほど離れたところに位置し、北側には、源頼朝の弟、範頼にゆかりの深い龍泉寺とその愛馬を祭る「駒塚」があり、古い歴史を有しています。昭和22年に設置された本校は、隣接していた飯田中との合併を経て、令和7年度に統合60周年を迎えました。統合50周年の際には、浜松市内でいち早く制服をブレザー化するなど、歴史や風土を大切にしながらも、社会の変化に応じた生徒主体の教育環境作りを心掛けてきました。全校生徒549名の比較的大規模な学校です。

保護者や地域住民も、学校諸活動に大変協力的です。全校生徒を対象に行われるキャリア講座では、同窓会を通じて様々なキャリアを持つ講師が集まり、「働くとは何か。」を学びます。学校教育目標である「夢や未来に向かって自らの可能性に挑戦し続ける生徒の育成」の具現につながっています。そして、教育目標を達成する手立てとして、令和5年度から、浜松市内で初めて『全員チーム担任制』を取り入れました。学年所属職員が全員でローテーションを組み、各学級を担当します。生徒にとっては、関わる大人が増え、相談窓口が広がりました。生徒主体で物事を決める機会が増え、学級全体の団結力の高まりを感じます。また、教職員にとっては、それぞれの持ち味を生かし、様々な視点で生徒の変化に気づくとともに、生徒対応への抱え込みが減ったと感じます。

本校の保健室は、ヒヤリハッとするけがや、心因性や生活習慣の乱れが原因と考えられる体調不良者の来室が多いです。欠席率も7%後半で、学校以外で学ぶ生徒も少なくありません。養護教諭は、担任ローテーションは担当しませんが、各学級の副担任という思いを持って、専門職の知識と技能を生かし、一人ひとりの生徒と向き合い、寄り添うことで、チームの一員の役割を果たすことを大切にしてきました。

健康は、「自己実現」のための重要な資源であると考え、学校保健目標を「生涯にわたって健康を保持増進できる自己管理能力をもった生徒の育成」とし、学校保健活動を展開しています。健康診断の待ち時間を利用して、音声入りのスライドを作成し、がんの成り立ちや早期発見・早期受診の必要性を語り掛けます。受診につながらない生徒には、年2回の相談期間を設け、家庭状況に応じた個別指導を行います。また、生徒目線で安全点検を行い、事故予防に力を入れています。子供達には、大人が助けてくれる小中学生のうちに、自分で健康を保つ方法や、事故から身を守る方法を学び、この先の人生を、後悔少なく、生きていくことを願います。

げんきな事業所

ジヤトコ株式会社

静岡県富士市吉原宝町１－１

当社は、自動車に欠かせない主要部品である自動車用変速機、電動パワートレインおよび部品の開発・製造・販売を行っています。１９７０年１月の創業以来、合併など会社変遷を経ながら、長年にわたり一貫して培ってきた技術力を強みに、国内外で事業を展開してきました。現在の社員数はグループ全体で約１１７００名（連結）、本社のある静岡県には約６０００名の社員がものづくりの現場を支えています。

会社外観

近年は社会や環境の変化に対応するべく、新しい分野への挑戦にも取り組んでいます。具体的には、電動アシスト自転車用ドライブユニット、介護用車椅子、鉄の廃材を再利用したエコナイフ、電気自動車のモーターを再利用した風力発電のユニット等、環境への配慮や持続可能な社会への貢献を意識した新規事業を始動しています。

当社は企業理念として「技術と情熱でモビリティの可能性を拡げる」を掲げ、それを作り上げるのは「人財」であると考えています。社員の心身の健康は会社の大切な「財産」であり、安全で品質の高い製品を安定してお客様へ届けるためには、社員一人ひとりの健康増進と、健康で生き生きと働きやすい環境づくりが何より重要である、と社長による健康経営宣言においても明文化されています。このような姿勢が評価され、２０１９年以降「健康経営優良法人（ホワイト500）」に毎年連続で認定されています。

さらに、ダイバーシティの推進にも力を入れています。性別や年齢、国籍、ライフステージの違い等を尊重し合い、誰もが自分らしく働ける職場づくりを進めることは、心身の健康保持にもつながっています。育児や介護、病気と仕事の両立を支える制度や、柔軟な働き方の整備は、社員が無理なく長く働き続けるための大切な基盤となっています。

また、２０１７年度より構内全面禁煙を実施している点も、当社の健康への強い決意を表す取り組みの一つです。導入時は反発する声もありましたが、段階を追って丁寧な説明を行い、禁煙を希望する社員への支援や相談体制も整えることで、導入に成功しました。

健康サポート室メンバー

受動喫煙を防ぐだけでなく、喫煙者も非喫煙者も誰もが安心して働ける職場環境の整備につながっています。

安全健康管理部健康サポート室が中心的役割を担い、社員の健康管理を担当しています。産業医、保健師、衛生管理者などスタッフが在籍し、毎年の定期健康診断実施はもちろん、結果を踏まえた保健指導や受診勧奨等の支援を行っています。健康サポート室と各職場が連携し、職場訪問や健康教育、健康イベントを通じて、社員が自分の健康に気づき、向き合えるような活動も進めています。具体的には、ウォーキングイベントや食育イベント、社内ジムを活用した運動イベント等を実施しています。これらの活動は保健師が中心となって企画しており、保健師は社員が楽しみつつ健康になることができるよう、日々工夫を凝らしています。

社内ジムを活用した運動イベント

掲載写真には健康サポート室のメンバーが映っています。ご覧の通り、明るく元気な仲間が揃っています。世界を舞台に活躍する社員の縁の下の力持ちとして、心のこもったサポートを継続していきます。